

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-319	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
<p>Intravenous 0.9% sodium chloride therapy does not reduce length of stay of alcohol-intoxicated patients in the emergency department: a randomised controlled trial. 静脈内 0.9%の塩化ナトリウム投与は救急治療部のアルコール中毒患者の入院期間を減らさない：無作為対照臨床試験。</p>		
執筆者		
Perez SR ¹ , Keijzers G, Steele M, Byrnes J, Scuffham PA.		
掲載誌		
Emerg Med Australas. 2013 Dec;25(6):527-34.		
キーワード		
アルコール急性中毒、生理的食塩水、救急医療、輸液		
要 旨		
<p>背景 0.9%塩化ナトリウム（生理的食塩水）の静脈内投与は、その有効性の証拠が不十分にもかかわらず救急外来（ED）の急性アルコール中毒患者を治療するために多用される。</p> <p>目的 本研究の目的は、ED の急性アルコール中毒患者で生理的食塩水静脈内投与＋観察と単独で観察する治療を比較することにある。</p> <p>方法 一回で 20mL/kg の生理的食塩水静注＋観察と観察のみとを比較するため一重盲検無作為対照試験が行われた。144 例の ED に訪れた複雑な合併症をもたない単純な急性アルコール中毒患者が含まれた。本研究は、Queensland, Australia の 1つの三次救急と 1つの都市 ED で実施された。主要アウトカムは、ED 入院期間（EDLOS）であった。第2のアウトカムは治療時間、呼吸アルコール濃度、中毒症状スコア、中毒レベルと関連するヘルスケア費用であった。</p> <p>結果 両群は、試験開始時には同等であった：血液アルコール濃度（BAC）は、治療群とコントロール群で同等であり（0.20%の BAC 対 0.19%の BAC (P = 0.44)）、最初の中毒症状スコアも同等（22.0 対 22.3 (P = 0.90)）であった。両群は、同様の EDLOS であり（287 分対 274 分 (P = 0.89) ;13 分の差 [95%CI-37-63]）、同様の治療時間（244 分対 232 分 (P = 0.94) ;12 分の差 [95%CI-31-55]）であった。呼気中アルコール濃度、中毒症状スコアと中毒レベルの変化は、2 群間で有意差を示さなかった。治療群の患者は、コントロール群に比較してオーストラリア\$として 31.92 \$ の追加ヘルスケア費用を要した。</p> <p>結論： 観察単独に加えらるる生理的食塩水の静脈内投与の治療は、単独で観察することに比較して ED 入院期間を減少させない。中毒の中毒排尿症状スコアと全身状態は、両群で同様だった。本研究はいずれのアプローチも合理的なことを示唆する、しかし、集中的に少ない資源であることより、観察単独は好ましいかもしれない。</p>		